

塩谷郡市医師会だより

Contents

平成20年度第2回役員会
 学術講演会の報告
 第4回生活習慣病予防講座

第54号

社団法人 塩谷郡市医師会

さくら市桜野1319番地3
 さくら市氏家保健センター内
 TEL 028(682)3518

平成20年度第2回役員会報告

平成20年9月8日(月)午後6時30分よりさくら市氏家保健センター医師会事務室にて開催された。

出席者：尾形会長・山田副会長・阿久津副会長・後藤・軽部・佐藤・佐野・半田・岡・本間・尾形新・大和田・手塚理事・池田・越井・川原事務長



■議題 後任事務長の紹介

来年4月から事務長に就任する桑川賢さんの紹介があった。桑川さんは事務長引継ぎのため10月1日から勤務する予定。

(詳細は後述)

■議題 塩谷総合病院移譲について

尾形会長から、県が中心となり、済生会を受け皿として話が進んでいる経過について説明があり、本医師会として何をすべきかについて活発な意見交換があった。矢板医師団としても今後積極的に取り組みたいとの山田副会長の話があった。

■議題 栃木県における

新型インフルエンザ対策について

軽部理事より説明があり、3月にはガイドラインが出るとのことで、その頃に勉強会を開く予定。詳細は国のホームページにも載っているので参照してください。

■議題 各種委員会報告

(1) 保険委員会(大和田理事報告)

県の保険委員会として、5分間ルールの撤廃と社保の査定の時にレセプトコピーを付けて戻して欲しいということを要望した。

(2) 介護保険委員会(後藤理事報告)

11月21日(金)と28日(金)に「かかりつけ医認知症対応能力向上研修」が氏家保健センター集団指導室で開催され、さくら市の小林先生が講師を務める。

(3) 感染症対策委員会(軽部理事報告)

塩谷地区の中学生のMR(麻疹・風疹混合ワクチン)接種率は高いが、高校生が低い。他の地区では個別接種のところは中学生の接種率も低く、今後の対策が必要。

(4) 研修(学術)委員会(岡報告)

年間6回の講演会と脳卒中予防講習会を行う。今年度は内科的な慢性疾患にこだわらず、広いテーマで行う

(5) 研修(産業医)委員会(阿久津副会長報告)

ケースカンファランスの出席者が少ない。

「医師会だより」は活字の大きさを大きくして読みやすくしました。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	川原 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

(6) 塩谷都市医師会史委員会(岡報告)

新たに発掘された資料の整理を今年度と来年度行い、3年後に医師会史続編を刊行予定。さくら市ミュージアムで医療史の一環として「黒須菊三九・光雄展」が行われるので、ぜひ見て欲しい。

(7) 広報委員会(岡報告)

一般住民向けの対外広報として2か月に1回「健康かわら版」の発行を始めた。創刊号は公開講座を取り上げた。下半分には2市2町の休日当番医の表が載せてあり、地域の住民にとって役に立つ情報と考えられる。

(8) 社会活動報告(尾形新理事報告)

9月28日(日)に塩谷町の塩谷中学校アリーナで公開講座の準備が進んでいる。

(9) 医療機能分化委員会(阿久津副会長報告)

11月1日(土)に矢板市で「地域医療再生に向けて」というテーマでシンポジウムが開催される。塩谷総合病院の問題もあるのでぜひ多くの市民に参加してもらいたい。

また、尾形会長より、医療連携で、「連携くん」で画像を送るのは現状ではマンパワーなどから難しいので画像をCD化したり、コピーで対応したいとの話があった。

■議題 公益法人制度改革に関する意向調査の実施について

阿久津副会長より塩谷都市医師会も新しい公益法人制度で今後、公益法人か一般法人かを選択することになるとの話があった。

■議題 休日夜間こども診療室について

阿久津副会長と軽部理事から報告があり、今年度(3月末)までは、しおや、くろすの二か所で予定通りこども診療室が開けるが、来年度については現時点では塩谷総合病院の経営移譲の件もあるので決めかねるとの話があり、12月の役員会で決める方向になった。

公開講座 I N 塩谷

塩谷都市医師会の第4回生活習慣病予防講座が9月28日(日)塩谷町の塩谷中学校アリーナで開催された。当日は稲刈りの忙しい時期にも拘らず、520人もの聴衆が来場し、熱心に講師の話しに聞き入った。

はじめに、尾形医院作業療法士の小川昌宏氏による「在宅でのリハビリの実際」という題の講演が軽い体操などを交えて行われた。その後、小野崎千鶴子保健師による食育の話があり、元日本テレビアナウンサーの小林完吾氏の講演が行われた。小林氏は二度の脳卒中を経験しながら懸命のリハビリで後遺症を克服した話をユーモアを交えて話し、聴衆はその体験のすごさと明るさを失わない人柄に魅了された。司会をお願いした塩谷町出身のアナウンサー石島さわかさんも明るく和やかに講演を盛り上げてくれた。

個人的な感想であるが、観客を惹きつけたという点や観客に満足してもらえた

という点では、今までの医師会が行った一般方向けの講演の中で一番の成功ではなかったかと思う。そういう意味で、塩谷地区の2市2町の中で一番小さな塩谷町を会場にして、これだけの数の観客を集めて良い講演ができたということは医師会の広報や活動の成果を素直に喜んでいいのではないだろうかと思う。

(報告者：岡)



小川氏と石島アナ

学術講演会報告

●「インスリン抵抗性改善薬処方にあたって」

日時：平成 20 年 7 月 8 日（火）19 時から

場所：さくら市氏家保健センター

講師：自治医大内分泌代謝科

長坂 昌一郎先生

ここ 10 年の糖尿病治療では、インスリン抵抗性改善薬（チアゾリジン薬）とピグアナイド薬が注目を集めている。今回の長坂先生の講演はこれらの薬剤がどのような機序で糖尿病の病態や血糖コントロールを改善させるのかを豊富な経験と具体例を交えてわかりやすく解説してくれた。

糖尿病の治療は合併症の抑制が重要であるが、これらの薬剤は血糖コントロールばかりでなく、合併症の抑制にも有用であることが示されつつある。今後のわれわれの糖尿病治療の指標となるような有意義な講演会であった。（報告者：岡）



●「明日から役立つ骨粗しょう症治療の実際」

日時：平成 20 年 9 月 18 日（金）19 時から

場所：さくら市氏家保健センター

講師：獨協医科大学産婦人科

准教授 望月 善子先生

骨粗しょう症の患者は現在約 1100 万人いると推定されており、高齢者の寝たきり原因の第 3 位を占める。しかし、治療を受けているのはその 20-30%に過ぎない。最近は更年期以降の女性ばかりでなく、男性の骨粗しょう

症も注目されているという。望月先生は「骨粗しょう症の予防と治療ガイドライン 2006 年度版」をもとに、診断から治療にいたるまでわかりやすく解説してくれた。積極的に骨粗しょう症を発見し、治療するには問診が重要であること、例えば姿勢の変化や年間 2 cm 以上の身長低下は骨粗しょう症を疑うべきであることなど実際的な内容の話で、まさに明日から役立つ講演会でした。

（報告者：岡）



左：講師の望月先生

右：座長の半田先生

●塩谷都市医師会医療連携学術講演会

日時：平成 20 年 10 月 7 日（火）19 時から

場所：さくら市氏家保健センター

講師

1. 「消化器・呼吸器救急疾患の実際」

NHO 宇都宮病院連携室長 増田 典弘先生

2. 「NHO 宇都宮病院に出来ること」

NHO 宇都宮病院院長 沼尾 利郎先生

現代の医療危機を乗り切るには診療所と中核病院の医療連携がますます重要になってきている。今回は、ここ数年宇都宮北部を中心に救急医療の分野で重要な役割を果たし始めている NHO 宇都宮病院の増田地域医療連携室長（外科）と沼尾院長に講演していただいた。

増田先生は現在、NHO 宇都宮病院が救急で受け入れられる疾患と受け入れられない疾患について具体的な症例を提示してくれた。特に急性腹症（腹痛）や吐血・下血の診断の

注意点などもエコーの画像を示して簡潔に説明してくれ、非常に役に立つ話でした。



左：沼尾利郎先生

右：増田典弘先生



沼尾院長は「出来る範囲で地域医療に貢献しよう」という方針で救急医療を始めた経緯や、昨年度は 1710 人の救急患者の受け入れを行ったことや、塩谷地区でも高根沢町とさくら市からの受け入れがここ数年で二倍になっていることを示してくれた。また、各科の特徴や受け入れについて簡潔に説明してくれたので、今後の患者紹介に役立つ内容でした。

われわれ開業医はそれぞれの中核病院がどのような医療ができるのかを完全には把握していない。そのため、全ての診療科が揃っている大学病院などの三次医療機関に患者さんを紹介しがちである。しかし、患者さんにとっては車で1時間以上かかる上、待ち時間も長い大病院より、なるべく近くの医療施設で専門的な検査や治療を受けられるに越したことはない。医師会では、今後も同様の医療連携の講演会を企画したいと考えていますので、ご意見・ご要望をお寄せ下さい。

(文責：岡)

事務局からのお知らせ

医師会シンポジウム開催

11月1日(土)午後3時から、矢板市文化会館大ホールにおいて「地域医療の再生に向けて」と題したシンポジウムが開催されます。ポスターと健康かわら版2号は各医療機関に配布いたしました。多くの住民の方に参加していただけるように、医療機関での周知をお願いします。

さくら市ミュージアム企画展

～「黒須菊三九・光雄展」～

10月24日から12月7日まで、さくら市ミュージアムにおいて「みんなの大恩人 - 黒須菊三九・光雄先生 - 」展が開催されます。黒須菊三九は黒須病院の創設者であり、息子の光雄は塩谷郡市医師会長を務め、地域医療の発展に貢献しました。一方でふたりは牧野牧陵や荒井寛方の作品収集や援助など、地域文化の発展に貢献しました。

塩谷郡市医師会はこの企画展の後援をしております。ぜひ、一度ご覧になって下さい。



次期事務長の紹介

10月1日より医師会事務次長として着任しましたのでよろしくお願ひいたし

くめかわ けん
桑川 賢 さん

昭和20年生まれ。小山市出身 宇都宮市在住
足利銀行勤務
川原事務長の後輩。
趣味は陶芸
座右の銘：努力の上に辛抱
という棒を立てる
汗は人間を強くし、涙は
人間を優しくする



医師会発展のため精一杯頑張ります。